

ぶんかざいまるちなび

No.55

## 文化財 知 ナビ

このニュースレターは、「文化財に親しむ機会の提供に関する事業」の一つとして、身近な文化財情報をはじめ、文化財を活用した事業などの紹介を行っています。

ぜひ学校教育や生涯学習の場で広くご活用ください。

せかいいさん じょうもんいせき  
世界遺産になった縄文遺跡

北海道、北東北には2万カ所以上の縄文時代の遺跡が確認されており、北海道では約7,400カ所の遺跡があります。そのうち、縄文時代を通じて文化の共通性が高い津軽海峡周辺の地域を中心に、発掘調査で遺跡の価値が確認されており、市や町がきちんと保護をしている17の遺跡が構成資産として選ばれました。

## 《北海道の構成資産・関連資産》

北海道では、千歳市キウス周堤墓群、伊達市北黄金貝塚、洞爺湖町入江貝塚・高砂貝塚、函館市大船遺跡・垣ノ島遺跡が構成資産に、森町鷺ノ木遺跡が関連資産になっています。それぞれの遺跡には、繰り返し人が住んでいるため、様々な時期の石器や土器、竪穴住居跡がありますが、そのうち定住の歴史が説明出来る部分が選ばれて構成資産となっています。

## 《函館市垣ノ島遺跡》9,000年前頃

垣ノ島遺跡は、ムラの中で家を建てる場所とお墓を作る場所をきちんと分けていたことが分かる、遺跡です。また、写真のような平らな石のへりを打ち欠いてヒモを固定しやすくした、魚を捕る網に付けるオモリが多く見つかっており、漁業が盛んであったことが分かります。



## 《伊達市北黄金貝塚》7,000年前頃

北黄金貝塚は、家を建てる場所やお墓を作る場所だけでなく、食べ物を貯蔵する場所やゴミを捨てる場所（貝塚）を分けていたことが分かる遺跡です。骨製の釣針などの漁業の道具のほか、写真のような木の実などをする漬するための道具も多く見つかっており、縄文時代の食生活がよく分かります。

## 《函館市大船遺跡》 4,500 年前頃

大船遺跡は、集まって住むようになったことでムラが大きくなり、同時に建っていたわけではないものの、100 を越える竪穴住居跡が見つっています。写真は多数の竪穴住居が繰り返し作られ、至る所穴だらけになっている様子です。



## 《森町鷺ノ木遺跡》 4,000 年前頃

鷺ノ木遺跡は、ムラごとにあつたお祭りの場所から、複数のムラの共同のお祭りの場所が作られるようになる時期の遺跡です。直径 40m の円形に石が並べられた環状列石は北海道最大です。石は 1km ほど離れた川の河口から運んだものと考えられています。

## 《洞爺湖町入江貝塚》 3,800 年前

入江高砂貝塚は、分散して住むようになったことでムラが小さくなる時期の遺跡です。骨製の釣針などの漁業の道具のほか、写真のような北海道には生息していないイノシシの牙を加工したアクセサリーが見つっています。



## 《洞爺湖町高砂貝塚》 3,000 年前

高砂貝塚は、複数のムラの共同の墓地が作られる時期の遺跡です。お墓からは、石器や土器などたくさんの副葬品も見つっています。

## 《千歳市キウス周堤墓群》 3,200 年前頃

キウス周堤墓群は、複数のムラの共同の墓地として、巨大なお墓が作られる時期です。最大で直径 75m のドーナツ状の土手が巡る周堤墓が 9 つ見つっています。

